

牛群検定ビッグデータ（その35）

～空胎日数について～

牛群検定のビッグデータからわかるいろいろなことを本コーナーで紹介していきます。

上図は、R5年度の全国の空胎日数を度数分布で示したものです。分娩間隔のような繁殖成績と同様に右側の裾が長い分布になっています。平均値は154日ですが、最も多く記録される値である最頻値は82日であり、長期化させている一部の検定牛の成績が改善すれば、空胎日数や分娩間隔を短縮できることを示しています。

下図は年毎の分娩間隔と空胎日数の平均値の推移をグラフで示したのですが、R5年の空胎日数は長期化していますので、R6年の分娩間隔は長くなる可能性があり、R6年も猛暑が続きましたので、注意が必要です。

